

第4回「もんじゅ安全・改革検証委員会」を開催、もんじゅ改革の1年間を総括

原子力機構は、保守管理上の不備などを契機に、平成25年10月から、安全を最優先とする組織を目指して、1年間の集中改革期間を設定し、「もんじゅ」改革に取り組んでまいりました。

この1年間の改革の成果について、外部の有識者による検証をうけるための「もんじゅ安全・改革検証委員会」の第4回会合を9月25日に開催しました。

原子力機構からは、改革による変化や成果の具体的事例と評価、及び今後の課題への対応について説明し、未だ改革の途上にあるという認識から、独立行政法人としての大きな節目となる現中期目標期間（平成26年度まで）の間、「もんじゅ」の集中改革を継続し、改革とその定着の総仕上げを行うことを述べ、各委員のご意見を求めました。



第4回「もんじゅ安全・改革検証委員会」

これに対し、各委員からのご意見が述べられた後、検証委員会による意見として、以下のとおりとりまとめられました。（要約）

- 理事長主導の改革により、職員の改革への意識の高まりが感じられ、「もんじゅ」は変わりつつあると言える。
- しかしながら、保守管理不備の問題に対する重要な課題が残されており、集中改革を継続せざるを得ない状況となったことは残念である。
- まずは、安全の大前提となる機器類の保全に全力を挙げることが重要であり、6ヶ月間、集中改革を継続することは適当と考える。
- 今後の改革の継続にあたり、以下が重要と考える。
 - 変革は容易ではなく、個人及び組織としての不断の努力が必要。
 - 自らの課題を認識し、他の成功／失敗事例から学ぶ、能動的取組みが必要。
 - 活動の成果を、エビデンスとともに可能な限り定量化して、職員が共有して取り組みを確実に進めることが必要であり、それらを適宜公表することが、地域住民からの信頼につながる。
- 本来の姿である運転再開を行うことこそが、職員の意欲、マイプラント意識の向上、ひいては仕事の質の向上につながるものであり、そのためにも根本的な安全管理を確実に実行する体質に改革することが必須である。現在進めている改革を成し遂げ、国民から信頼される組織に再生した上で、本格的な運転対応の安全管理の体制にして運転再開を目指すことが必要である。

これらのご意見を踏まえ「もんじゅ」では、新しい中期計画が開始する来年4月には、国民から信頼され、自立的にPDCAがまわる組織として再生した「もんじゅ」として再出発できるよう全力を尽くしてまいります。

● 本資料に関するお問合せ先 ●

日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 業務管理部広報課

Tel : 0770-21-5023 Fax : 0770-25-5782 ホームページアドレス <http://www.jaea.go.jp>
発行：平成26年10月20日



原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ

ご挨拶

平素より当機構の業務にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。10月1日付けで高速増殖原型炉もんじゅの所長を拝命しました、青砥です。よろしくお願ひ致します。

今般、「もんじゅ」を中心に関連敦賀地域の大幅な組織再編を行いました。この組織再編の主たる目的は、『もんじゅ』改革の加速、充実にあります。

この改革は本来、先月末で終了した機構の集中改革期間に完遂されるべきものでした。しかしながら、当該期間中に、原子力規制委員会から受けている措置命令の解除に至ることができなかったこともあり、未完であるとの認識から、「もんじゅ」改革を明年3月まで継続することといたしました。

地元の皆様には、私共の改革にご期待をいただいていたところ、これにお応えすることができず大変申し訳なく思っております。もんじゅ職員一同、国民の皆様からの厳しいご批判を改めて認識し、これを深く反省し、またこの一年間の改革の成果を十分に発揮して、心を新たに、そして1つにして、先ずは不退職の決意の下、措置命令解除に向けて最大限の努力を注ぎたいと思っております。

今後とも、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



高速増殖原型炉もんじゅ
所長 青砥 紀身



敦賀地区における新体制(平成26年10月1日)

平成26年10月1日付けで、敦賀地区の組織再編を行い、以下の体制で、一丸となって業務運営に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。



松浦 祥次郎
・理事長
・もんじゅ安全・
改革本部長



齋藤 伸三
・副理事長
・敦賀事業本部長
・もんじゅ安全・
改革本部長代理



吉田 信之
・高速炉
研究開発部門長
・敦賀事業本部長代理



関野 英夫
・敦賀事業本部
副本部長



中村 忠嗣
・敦賀事業本部
副本部長



吉川 隆志
・敦賀事業本部
国際産学連携
センター長



青砥 紀身
・高速炉
研究開発部門
高速増殖原型炉
もんじゅ 所長



家田 芳明
・高速炉
研究開発部門
もんじゅ運営
計画・研究開発
センター長



高橋 秀孝
・バックエンド
研究開発部門
原子炉廃止措置
研究開発センター
所長



大道 博行
・原子力科学研究部門
量子ビーム
応用研究センター
レーザー共同研究所長

10月1日付 もんじゅ関連組織の再編

原子力機構では、「もんじゅ」改革の一環として、「もんじゅ」の組織を保守管理上の不備問題への対応とプラント維持管理に専念できるようにするため、10月1日付けで下図のとおり組織の再編を行いました。



もんじゅ所長交代式



もんじゅ運営計画・研究開発センター発足式

＜組織再編のポイント＞

- ① 「もんじゅ」を**理事長直轄の組織**とし、機構全体のトップガバナンスで運営。
- ② 「もんじゅ」を**スリム化し、運転・保守、当面の課題解決に専念する組織**へ再編。
- ③ 「もんじゅ」専属の**支援組織(もんじゅ運営計画・研究開発センター)**を新たに設置。
- ④ 「もんじゅ」内の**保守管理や品質保証体制の強化。**

「敦賀本部」は「**敦賀事業本部**」に名称を変更し、引き続き敦賀地区に所在する「もんじゅ」、「もんじゅ運営計画・研究開発センター」、「原子炉廃止措置研究開発センター(ふげん)」、「レーザー共同研究所」の業務運営を統括してまいります。

